

XML コンソーシアム 部会紹介セミナー

開催日:2006年 6月 28日(水)

会 場:ジャストシステム 東京支社 7F カンファレンスルーム

プログラム:

13:30 開会

13:30-14:30 「各部会活動の概要紹介」

各部会が今まで取り組んできたテーマや技術範囲、活動実績と今年度の活動計画について、簡単にご紹介いたします。

14:30-16:30 「部会オリエンテーション」

希望する部会ごとにグループに分かれていただき、各部会リーダーやメンバーから 詳しい部会紹介や計画についてご説明をしたのち、グループごとにミーティングを行います。

活動したいテーマや要望についてディスカッションしていただき、入会希望の部会の活動状況や計画についてご確認ください。

なお、時間を前半・後半に分けますので、2つの部会のオリエンテーションに参加することができます。

16:30-16:45 「部会入会の手続きについて」

その他連絡事項 等

16:45 終了

以上

XML コンソーシアム 部会紹介セミナー

1. 部会活動成果

(1) SOA 部会.....	1
(2) セキュリティ部会.....	1
(3) Web サービス実証部会.....	2
(4) ドキュメント・メタデータ活用部会.....	3
(5) ユビキタス・組み込み系部会.....	4
(6) ビジネス・イノベーション研究部会.....	5
(7) ContactXML 部会.....	5
(8) TravelXML 標準化部会.....	5
(9) コンテンツ利用情報標準化部会.....	6
(10) 関西部会.....	6

2. 2006 年度部会活動計画

(1) SOA 部会.....	8
(2) セキュリティ部会.....	9
(3) Web サービス実証部会.....	10
(4) Web2.0 部会.....	11
(5) クロスメディア・パブリッシング部会.....	13
(6) ユビキタス・組み込み系部会.....	14
(7) ビジネス・イノベーション研究部会.....	15
(8) ContactXML 部会.....	17
(9) TravelXML 標準化部会.....	18
(10) コンテンツ利用情報標準化部会.....	18
(11) 関西部会.....	19

3. 2006 年度 XML コンソーシアム組織.....22

1. 部会活動成果

(1) SOA 部会

部会ミーティング

BI 研究部会と共催で 2005 年 6 月 - 2006 年 4 月まで毎月 1 回、計 11 回開催

主な議論のテーマ

SOA に関わるデザインパターン/アーキテクチャパターンの調査・研究
グレゴールグラムなど SOA モデリングで用いるダイアグラムの調査

成果発表(BI 研究部会と共同)

第 4 回 XML コンソーシアム Week(2005 年 6 月 8 日)でのプレゼンテーション

SOA 技術解説

SOA のパターン -ESB を中心に-

XML コンソーシアム入門講座(2005 年 10 月 18-19 日)でのプレゼンテーション

Web サービスの現在(いま)

Web サービスのビジネスモデル

Web サービス・ユーザー事例研究

第 7 回 XML コンソーシアム Day(2005 年 12 月 16 日)でのプレゼンテーション

SOA 実装の記述方式 -グレゴールグラムを用いて-

成果物

コンソーシアム Day やセミナーでのプレゼン発表資料(Web で公開)

SOA 技術解説

SOA のパターン -ESB を中心に-

Web サービスの現在(いま)

Web サービスのビジネスモデル

Web サービス・ユーザー事例研究

SOA 実装の記述方式 -グレゴールグラムを用いて-

(2) セキュリティ部会

目的

XML セキュリティ技術のビジネスシステムへの適用に向けて、規格の調査・翻訳・解説を行ない、また、アプリケーションモデルの検討・試作を通じてシステム構築における様々な問題点の解決方法や具体的な実装ノウハウを蓄積すると共に、それらの成果物を公開することによりセキュリティ技術の普及を促進させるべく活動を行なう。

活動内容

標準規格文書の翻訳、公開

- OASIS Web Services Security 1.0: SOAP Message Security 1.0 (WS-Security 2004) Errata 1.0
- OASIS Web Services Security 1.0: Username Token Profiles 1.0
- OASIS Web Services Security 1.0: Username Token Profiles 1.0 Errata 1.0
- OASIS Web Services Security 1.0: X.509 Token Profiles 1.0
- OASIS Web Services Security 1.0: SAML Token Profiles 1.0

標準規格及び関連技術の調査と解説資料作成

- WSS 1.0 概要
- XACML 2.0 の概要
- Web サービスのベストプラクティス
- Web サービスポリシーの動向と仕様解説
- WS-Trust 概要
- OASIS WS-Security 標準について
- セキュリティ関連 XML 標準技術規格マップの更新

XML コンソーシアムセミナーの立案

- 2005.09.13

オープンな Web アプリケーション環境のためのセキュリティ最新動向 - 認証技術編

外部セミナーでの講演

- 2005.06.07
製造業 XML フォーラム 2005
「"暗号化対策" その手法と効果について」
- 2005.11.10
JavaOne Tokyo 2005
「Webサービスのベストプラクティス」
sPlat (Web サービス実証部会との合同による有志プロジェクト)の開始
Web サービスにおける暗号化 XML データの取り扱いに伴う問題点とその対策についての検討。
妥当性検証とデータバインディングを対象。

活動期間

2005年7月～

成果物

- 日本語翻訳
 - 2006.05.31
OASIS Web Services Security 1.0: SOAP Message Security 1.0 ([WS-Security 2004](#)) Errata 1.0
OASIS Web Services Security 1.0: Username Token Profiles 1.0
OASIS Web Services Security 1.0: Username Token Profiles 1.0 Errata 1.0
OASIS Web Services Security 1.0: X.509 Token Profiles 1.0
OASIS Web Services Security 1.0: SAML Token
- コンソーシアム主催セミナーでの発表
 - 2005.09.13
XML コンソーシアムセミナー
オープンな Web アプリケーション環境のためのセキュリティ最新動向 - 認証技術編
「Web アプリケーション環境のための認証技術: イントロダクション」
 - 2005.12.15
第7回 XML コンソーシアム Day
「セキュリティ部会活動中間報告」
「最新XMLセキュリティ技術概要」
「Webサービスのベストプラクティス」
 - 2006.05.22、24(予定)
第5回 XML コンソーシアム Week
「Web サービスを支えるセキュリティ技術」
「暗号化 XML データ利用技術についての課題と対策」(sPlat)

(3) Web サービス実証部会

活動目的

WebサービスおよびXMLを実システムに適用するにあたり、実ビジネスを想定したプロトタイプシステムの開発を通して、多くの技術者が抱えている技術的な課題の解決手段をみずから発見、公開し、XML/Webサービス利用技術の向上および普及に努める。

活動内容

- プロトタイピング
 - 実用システムのプロトタイプ開発
 - XML応用規格を利用したプロトタイプシステム開発
- XML/Webサービス関連プロダクトの評価
- XML/Webサービス応用技術の普及・推進
 - 定例セミナー・総会等での発表
 - 学会、雑誌等での発表
 - Webページによる情報の発信
 - 製品紹介セミナーの開催

活動期間

2005年6月～2006年5月

成果物

実証実験関係

- メタデータ活用部会と共同で、iPlat プロジェクト『道路交通情報 Web サービスを使った複合 Web サービス実証実験』を実施。7月～9月の期間、XML コンソーシアム会員向けに実証実験システムを公開。
参加企業：29社、参加メンバー：54名、利用製品数：18製品、17個のシステムが連携した大規模システム。

イベント関係

- 2005年 7月：『愛・地球博』会場で開催された ITS EXPO2005(主催:ITS JAPAN)で実証実験システムを展示。アンケート結果を見ると、一般利用者からの評価も高く、面白いサービスとの声も聞かれた。

セミナー発表関係

- 2005年 6月：第四回 XML コンソーシアム Week(道路交通情報 Web サービス実証実験 Day)にて実証実験の全ての成果を詳細にご紹介。
- 2005年 7月：情報処理学会 デジタル・ドキュメント研究会で実証実験システムをご紹介。
- 2005年12月：第七回 XMLコンソーシアム Day
- 2006年 2月：Developer Summit 2006 でセミナーを開催
『史上最多！？道路交通情報 Web サービスを使った複合 Web サービスシステム』
- 2006年 3月：第四回 XML コンソーシアム Week(道路交通情報 Web サービス実証実験 Day)にて実証実験の全ての成果を詳細にご紹介。
- 2006年 3月：Web2.0勉強会 第一回ミーティング
『道路交通情報 Web サービスを使った複合 Web サービスシステム』を Web2.0の視点から紹介

報道発表

- 2006年 5月：プレスリリース
Web サービスと連携する複合 Web サービスの実証実験に成功
～ 「愛・地球博」期間中、実証実験システムをインターネット上で運用 ～

学会、雑誌等での発表

- 2006年 3月：データベース白書 特集3『道路交通情報 Web サービスを使った複合 Web サービスシステム』
- 2006年 4月：日経 SYSTEM 5月号『Web2.0の波、開発現場へ』で『道路交通情報 Web サービスを使った複合 Web サービスシステム』を Web2.0の視点から紹介

(4) ドキュメント・メタデータ活用部会

扱ったテーマ：

愛知万博プロジェクト・サブシステムの設計、コンテンツ作成・評価を含む開発の後半・仕上げ、展示
～ Blog連携、動画RSS視聴、SAF携帯画像リアルタイム投稿&活用
iPlatのWeb2.0としての再評価、PAGE2006プレイベント等での対外アピール
表計算オントロジー ～ microformatsの先駆けとして表計算の項目(メタデータ)間の関係定義が有用なオントロジーに他ならないことを示した。学会発表他も実施。
XBRLの実用化、技術動向をフォロー ～ 規格や処理系の調査、12th XBRL Int'l Conf. でのxofy応用等
HR-XML の調査、実証評価実験アイデア出し
PSLXはじめ、その他の業界言語、メタデータ規格の紹介、調査
Web2.0の技術要素 ～ RESTからRemixingまで
Web2.0のマーケティング ～ ロングテールの意味他
Web2.0 for Enterpriseについて
Web2.0時代のSOA2.0 ～ REST準拠のサービスとSOAP/WSDLの使い分け、併用の予備検討
Web2.0の顔 ～ Ajaxを初めとするリッチクライアントの調査(開発環境含む)、試作。
エンタープライズ・マッシュアップの発案、検討、試作準備 ～ Web2.0のデータ中心主義、再利用・リアルタイム情報共有、超高速プロトタイピング等の特徴を象徴、体現する「マッシュアップ」をエンタープライズ内部で使うコンセプトを発案

活動形態・経緯：

- 5月27日 XMLコンソーシアム第5回総会にて新設(改名)部会の1つとして部会紹介
- 6月 9日 第4回XMLコンソーシアムWeek 3日目 「メタデータ活用、標準化Day」にて3講演
- 6月10日 第4回XMLコンソーシアムWeek 4日目 「道路交通情報Webサービス実証実験Day」にて6講演
- 7月 5日 関西部会紹介セミナーにて「メタデータ活用部会報告(Atom部分のご説明)」
- 7月13日 部会紹介セミナー 部会活動紹介セミナー & 「部会オリエンテーション」
- 12月15日 第7回XMLコンソーシアムDay 1日目で2講演 ～ HR-XML、リッチクライアント、XMLクライアント

9回の定例部会開催,ほぼ毎回の新人歓迎。初回に活動内容希望アンケートの実施
SNS、YahooGroupsを活用した日常の議論と情報・アイデア交換
1月19日 クロスメディア・プレスコンファレンス@デジハリ大学院
2月2日 PAGE2006 クロスメディア・コンファレンス「Web2.0時代の基幹系情報システムへのメタデータ活用」
3月3日 Web2.0勉強会第1回ミーティング+XMLコンソーシアムセミナーの企画、ならびに主要講師の派遣
4月11日 Web2.0勉強会第2回ミーティング「エンタープライズ・マッシュアップ!」の企画ならびに全講師、
パネリストの派遣

(5) ユビキタス・組み込み系部会

活動経過

部会創立2年目の2005年度はXML技術がユビキタスコンピューティング、ユビキタスネットワークにどのように関わり得るのかをモチベーションに、技術、市場、社会、家庭、人間といった幅広い分野を対象に、現状、歴史、未来を包含する調査研究活動を行ってきた。

技術的には、ICタグ、携帯電話、カーナビといったハードウェア、無線や家庭におけるネットワーク、個人情報管理、新時代のインタフェース、サイバーリテラシー、高齢化社会などの問題を内外の講師を呼んでヒアリングを行った。また、これらの技術に対して、内部での議論を掘り下げるとともに、ユビキタスアーキテクチャを独自に検討し、その成果を学会で発表した。具体的なテーマと社外発表は下記のとおりである。

(1) テーマ

第一回部会(2005.6.17)

ネットワーク情報へのオントロジ適用の検討

RFIDの応用

ユビキタス環境標準化への考察

スタートレックから想像するユビキタスネットワーク社会の未来予想図

なぜ、今、ubiquitousか

第2回部会(2005.7.12)

リバティアライアンスについて

第3回部会(2005.8.26)

旅行業界向けユビキタスサービス

第4回部会(2005.9.15)

スマートフォン M1000 のご紹介

将来のユビキタスライフの検討

第5回部会(2005.10.11)

将来のユビキタスライフの検討

PIMとネットワークの連携シナリオ

オフィスワークで携帯電話を使うシナリオ

電子機器業界の設計製造製品情報の一元管理と多目的活用

第6回部会(2005.12.1)

ユビキタスアーキテクチャ、シナリオ、地図

サイバーリテラシーについて

ユビキタス情報化社会とリテラシーについて

10年後のユビキタスライフ

第7回部会(2006.1.25)

セマンティック Web とユビキタス

ユビキタスコミュニケーションの提案

ユビキタスサービスプラットフォームコンセプト

第8回部会(2006.2.21)

W3C ユビキタスワークショップ、ユビキタスWebの紹介

生活便利ポータル提案

第9回部会(2006.3.16)

プレゼンス関連ソリューションの紹介

第10回部会(2006.4.4)

ユビキタスコミュニケーションの提案

第11回部会(2006.5.11)

「Web2.0時代のユビキタス」の検討

成果物

情報処理学会第52回デジタル・ドキュメント研究会「ユビキタスネットワーク社会の情報構造モデルの

検討」

画像電子学会 第 17 回 VMA 研究会「ユビキタスネットワークの構成に関する一考察」

(6) ビジネス・イノベーション研究部会

部会ミーティング

SOA 研究部会と共催で 2005 年 6 月 - 2006 年 4 月まで毎月 1 回、計 11 回開催

主な議論のテーマ

ビジネスプロセス・モデルのモデリング手法の調査・研究

ビジネス環境変化に対するビジネスプロセスとサービスの組み換えの研究

成果発表(SOA 部会と共同)

第 4 回 XML コンソーシアム Week(2005 年 6 月 8 日)でのプレゼンテーション

ビジネスプロセス記述からサービス設計へ

～ BI 研究部会活動とモデリング検証タスクのご紹介 ～

第 2 回 ビジネスモデリング・サミット(MTF 特別企画)

オブジェクトテクノロジー研究所主催

ビジネスプロセスを実現する SOA のアーキテクチャパターン

第 7 回 XML コンソーシアム Day(2005 年 12 月 16 日)でのプレゼンテーション

サービス指向におけるモデリング・アプローチ

成果物

コンソーシアム Day やセミナーでのプレゼン発表資料(Web で公開)

ビジネスプロセス記述からサービス設計へ

～ BI 研究部会活動とモデリング検証タスクのご紹介 ～

ビジネス環境変化に対するビジネスプロセスとサービスの組み換えの研究

(7) ContactXML 部会

目的

ContactXML仕様に関する制定・開発・情報公開・情報交換等のContactXML仕様の普及・啓蒙活動を行う

ContactXML仕様を活用したビジネスへの後方支援を行う

活動内容

ContactXML仕様の開発・制定・標準化

ContactXMLの適用研究・事例収集

ContactXML仕様に関する情報の収集、交換ならびに提供を行う場としての部会及び「ContactXML.org」

(ポータル・メーリングリスト)の運営

ContactXML仕様の普及・啓蒙活動

上記全成果物のXMLコンソーシアムへのフィード・バックと承認申請

活動期間

2002.1～

成果物

標準

- ContactXML Version 1.1a 仕様

- ContactXML Version 1.1 仕様

- ContactXML Version 1.0 仕様

(8) TravelXML 標準化部会

活動目的

旅行業者、交通機関、宿泊施設、各種サービス機関との間で行われる、取引情報について、業界での利用形態を調査・研究し、業界全体の効率化を目的とした電子商取引情報の XML による標準化提案を目指します。また特にパッケージ旅行商品に関する扱いについてのサポートを第一義の目的として検討します。

活動内容

TravelXML 標準案作成(作成 WG)

- 旅行業業界における商取引についての調査と要件把握
- 旅行業業界における商取引の XML による標準化案作成

TravelXML 標準の普及・啓発(普及 WG)

- 実装検証・評価
- Web ページ等による情報の発信
- XML コンソーシアム他部会及び他団体との協調による普及推進・標準化支援等

活動期間

2003.2 ~

成果物

標準

- TravelXML Version 1.3 仕様(勧告)
- TravelXML Version 1.4 仕様(勧告案)

報道発表

- 2005.5.12

「日本旅行業協会」と「XMLコンソーシアム」旅行業界における電子商取引の標準「TravelXML 1.3」勧告を発表 ~ 標準化の第2フェーズを完了し、今後は普及活動を中心に活動 ~

- 2005.10.27

「日本旅行業協会」と「XMLコンソーシアム」「TravelXML」全範囲の XML Schema 作成を完了し、パブリックレビューを開始 ~ 旅行業界における電子商取引の標準「TravelXML 1.4」勧告案を発表 ~

コンソーシアム Day/WEEK での発表

- 2005.6.9

旅行業業界の商取引向け XML 標準 - TravelXML 1.3 - の開発状況

- 2005.12.15

旅行業業界の商取引向け XML 標準 - TravelXML 1.4 - の開発状況

(9) コンテンツ利用情報標準化部会

活動目的

著作権者(著作権管理団体も含む)、コンテンツホルダー、配信事業者の間で行われるコンテンツ利用に使われる情報について業界での利用形態を調査・研究し、業界全体の効率化を目的としたコンテンツ利用情報の XML による標準化提案を目指します。

活動内容

コンテンツ利用情報 XML 標準案作成(作成 WG)

- コンテンツ利用情報対象業務についての調査と要件把握
- コンテンツ利用情報の XML による標準の改善

コンテンツ利用情報 XML の普及(普及 WG)

- Web ページ等による情報の発信
- XML コンソーシアム他部会及び他団体との協調による普及推進・標準化支援等

活動期間

2003.2 ~

成果物

標準

- ContentsBusinessXML Version 1.0 仕様

(10) 関西部会

活動目的:

関西で活動を行える会員間での、情報交換と交流を全体の目的とする。参加会員により、XML の利用状況を調査することで現状の認識を整理し、実装による会員の技術力向上を目指しながら、利点・問題点を共有化する。これらを通じて、関西での XML、Web サービス、SOA 等の普及活動の活性化に努める。

活動内容:

関西準備 Project 活動報告会並びに関西部会説明会実施
部会と同様の活動の報告会と初年度関西部会の説明会を実施(7月5日)

情報共有

2005年7月より月次 Meeting

活動検討

技術トピック情報交換

XML の活用状況調査

関西での XML 関連事例調査

Web 公開された XML 関連事例調査

事例の集約と独自分析報告

XML 関連新技術実装技術の習得と試用

Web2.0 的アプリケーション構築

Web サービス実装

Ajax 試用

外部サービス活用

参加者による技術情報交換会

Web2.0

XMLStarlet

情報共有方法の検討とコミュニケーション TOOL 試用

XOOPS、Trac、FML の融合環境試用

TOOL 機能習得(内部説明)

融合環境の実活用検討

活動期間

2005年7月～

成果物

XML 関連活用事例一覧

XML 関連活用事例分析結果

Web2.0 的アプリケーション及びサービス基盤

Ajax を用いた Web2.0 的アプリケーションと来年度も活用を目指した Web サービス

コミュニケーション TOOL 活用概要

来年度も活動の基盤として活用を目指したコミュニケーション TOOL の概要と活用方針

以上

2. 2006 年度 部会活動計画

(1) SOA 部会活動要綱案

目的

SOA(Service-Oriented Architecture)とはビジネスレベルの"サービス"を組み合わせさせてアプリケーションの連携や統合を行なうシステム構築の考え方をいう。当部会の目的は抽象的な SOA の概念から具体的なビジネス面でのメリット、システム設計の方針、Web サービスの有効活用の方法等を導きだすことである。さらに得られた情報や知見を外部に発信することで SOA や Web サービスの普及・発展に貢献することを目指す。

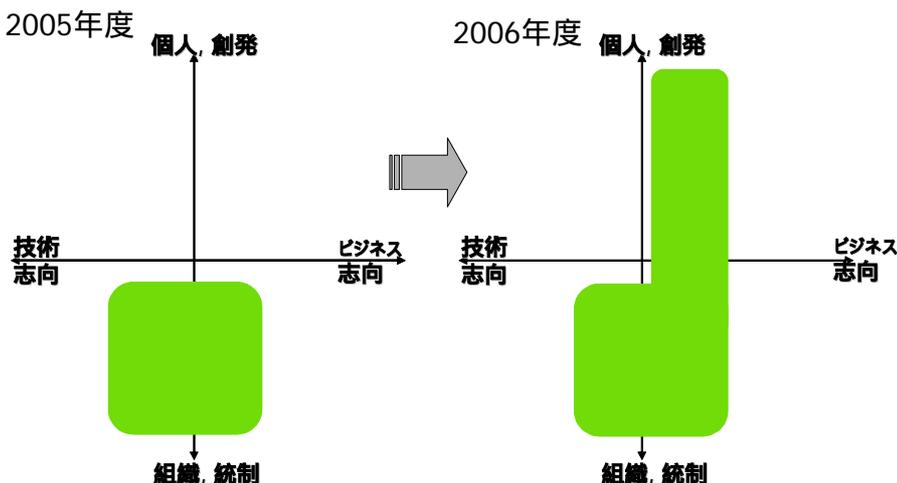
活動内容

以下のテーマを中心に活動を行なう。

- サービスの記述、発見、合成、実装に関する規格・技術の調査
- SOA によるプロセス統合、B2B、EC 等の実現事例の収集と分析
- SOA や Web サービス関連ツールや開発環境、実行環境の調査
- SOA の意義の認知や普及のための情報の発信
- SOA 実現に必要なノウハウ、アーキテクチャパターン、デザインパターンの収集と蓄積
- ビジネスモデルの定義から Web サービスによる実装に至る SOA 適用シナリオの作成
- AJAX やリッチクライアントなどの技術のトレンドと SOA との関連の調査

活動の位置づけ

活動内容の位置づけを下図に示す。



2006 年の重点施策

SOA の具体的なイメージを開発者/ユーザに提示することを重点施策とする。SOA の開発ツールや実行環境が整備されてきた状況に鑑み、SOA 開発プロセス(の一部)を実践してみても部会での議論を深化することを検討する。

活動方法

- 新年度に向けてのオリエンテーションをコンソーシアム Week 中に行なう
- 月例ミーティングでの Face-to-face のディスカッション
- メーリングリストによる日々の情報交換、ディスカッション
- ビジネスイノベーション研究部会とのコラボレーション(ミーティングの同日開催、メンバー交流)
- 参加メンバー個人による個別テーマや事例の調査
- XML コンソーシアム他部会等との協調による普及推進
- Web ページ、雑誌記事、出版など外部向けコンテンツの作成
- XML コンソーシアム Day、XML コンソーシアム Week での活動報告

ワーキンググループ

ワーキンググループの構成や活動形態については 2006 年度の最初のミーティング(6 月を予定)で協議し決定する。

対象者

SOA や Web サービスの実現やビジネス応用について興味をお持ちのかた。

会員メリット

SOA 関連情報・ノウハウの獲得
参加メンバーによる情報交換、人的ネットワークの確立

体制

リーダー/サブリーダーは 2006 年度の最初のミーティング(6 月を予定)で決定する。

候補

天野富夫 日本 IBM
牧野友紀 日本ユニシス

(2) セキュリティ部会活動要綱案

目的

XML セキュリティ技術のビジネスシステムへの適用に向けて、規格の調査・翻訳・解説を行ない、また、アプリケーションモデルの検討・試作を通じてシステム構築における様々な問題点の解決方法や具体的な実装ノウハウを蓄積すると共に、それらの成果物を公開することによりセキュリティ技術の普及を促進させるべく活動を行なう。

活動内容

セキュリティ規格の調査、解説
セキュリティ規格文書の翻訳
ビジネス適用事例の調査、収集
開発ツール、ミドルウェア等の調査および比較検討
モデルの構築とアプリケーションの検討
試作による技術検証
sPlat (Web サービス実証部会との合同による有志プロジェクト)
Web サービスにおける XML 暗号化を含むメッセージの取り扱いに伴う問題点とその対策の検討、および実装方法についての研究。

活動方法

メンバー全員による月例ミーティング、WG 別ミーティングの開催
メーリングリストによる日々の情報交換、ディスカッション
参加メンバー個人によるテーマ別の調査報告の実施
関連製品の紹介セミナーの開催
XML コンソーシアム他部会および他団体との協調による普及推進
翻訳文書、Web ページ、雑誌記事、出版など外部向けコンテンツの作成
XML コンソーシアム Day、XML コンソーシアム Week での活動報告

サブワーキンググループ

Web サービス実証部会との合同作業による sPlat プロジェクトを除き、部会内への WG 設置は基本的に行なわず、部会メンバー全員でのディスカッション及び研究作業を実施する。
活動の内容・規模に応じて必要と認められる場合には別途 WG を構成する。

会員メリット

XML 関連情報・ノウハウの取得
XML 技術動向の早期キャッチ・アップ
メンバーで膨大な情報を分担、料理した後、共有！
将来ビジネス発掘のための基礎情報取得
参加メンバーによる情報交換、人的ネットワークの確立

体制

初回会合において、メンバー間の互選にてリーダー及びサブリーダーを選出。

候補者： 岡村和英（ネット・タイム、2004～2005年度部会リーダー）

松永豊（東京エレクトロン、2004～2005年度部会サブリーダー）

(3) Web サービス実証部会活動要綱案

活動目的

Web サービスおよびXMLに加え、Web2.0の要素技術であるREST、Microformats、Ajaxなどを実システムに適用するにあたり、実ビジネスを想定したプロトタイプシステムの開発を通して、多くの技術者が抱えている技術的な課題の解決手段をみずから発見、公開し、XML/Webサービス利用技術の向上および普及に努める。

活動内容

プロトタイピング

- 実用システムのプロトタイプ開発
- 要素技術が抱える課題を解決する手法/方式の提案とプロトタイプ開発
- XML応用規格を利用したプロトタイプシステム開発

XML/Webサービス関連プロダクトの評価

XML/Webサービス応用技術の普及・推進

- 定例セミナー・総会等での発表
- 学会、雑誌等での発表
- Webページによる情報の発信
- 製品紹介セミナーの開催

活動方法

メンバー全員を対象とする定例ミーティングの開催

- ワーキング・グループ別の月例ミーティングの開催
- 必要に応じて、ワーキング・グループを横断した活動を実施
- 製品紹介セミナーの開催
- メーリングリスト活用による日々の情報交換、Q&A等

他部会、他団体との連携

活動成果・メリット

XML関連情報・ノウハウの取得

- 評価・プロトタイピング：作成した評価報告書およびプロトタイプのソースコードの作成及び公開
- 製品紹介：各企業での製品利用のきっかけに利用してもらう
- 参加企業間での情報交換・人的/ビジネス・ネットワークの構築

情報公開

- Webサイトでの評価報告・プロトタイプの公開
- 学会、雑誌等での発表

参加メンバーによる情報交換、人的ネットワークの確立

参加資格

XMLコンソーシアムの会員でWebサービスに関心があり、開発に参加できること

定例ミーティング又はメーリングリスト、総会・セミナー実施等の活動に参加できて、部会の活動に参加可能なこと

スケジュール概要

月1回の定例ミーティングの開催

XMLコンソーシアムとしてのイベント等に参加

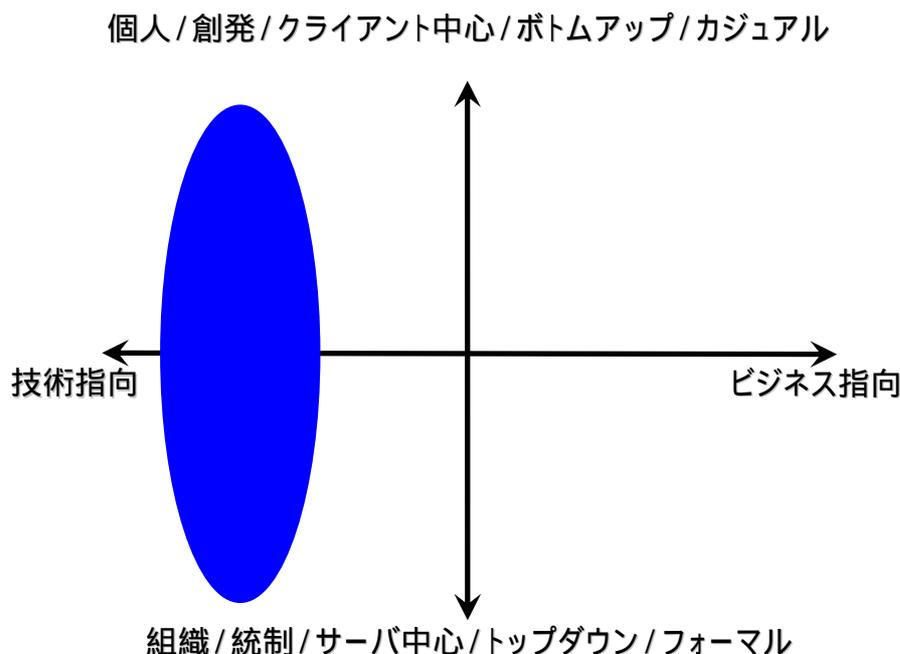
体制案

リーダー：PFUアクティブラボ株式会社 松山憲和

サブリーダー：株式会社 日立製作所 大場みち子

：東京エレクトロン株式会社 松永豊

位置づけ



(4) Web2.0 部会活動要綱案

活動目的

EnterpriseにとってのWeb2.0のビジョンを描き、一般(個人)向けのWeb2.0の哲学をEnterprise向けに”翻訳”しつつ高度に統合した利用原則、設計原則を導く。そのためのプロトタイプ開発や、評価、類似技術の比較調査、アプリケーションのアイデア出しを行う。特に、REST型と呼ばれる新しいシンプルなWebサービスとSOAP/WSDLベースのWebサービスとの使い分け、併用のガイドラインを中心に、”Web2.0 for Enterprise提言書”にまとめる。

背景

昨年度は、ブログのトラックバックSPAMが国内でも問題となるなど、当部会が以前から手がけていたRSS/Atomフィードの技術が広範に普及し、Web2.0の国内ブレイクの下地となりました。

Webサービス実証部会とドキュメント・メタデータ活用部会でプロトタイピングを行った愛知万博向けiPlatプロジェクトでは、RSS連携による写真付きブログや、インデックス情報付きの現地取材動画等のRESTベースのサービスを提供すると共に、緯度・経度という古典的なメタデータで多数のコンテンツを「マッシュ・アップ」する試みを先駆的に実行していたことに、事後に気づかされました。

2005年度後半、ドキュメント・メタデータ活用部会では、Ajax、Web2.0的Configurable portalからマッシュアップを中心に、Web2.0の技術要素を試用、試作してまいりました。また、ロングテール、徹底したデータ中心主義、microformats、remixingなど、必ずしも技術要素とはいえないWeb2.0の思想、デザインパターンについても議論を重ねてまいりました。

その中で、RESTベースとSOAP/WSDLベースのWebサービスとの使い分け、併用のイメージを2006年1月に初めて打ち出すことができ、”Web2.0 for Enterprise”をXMLコンソーシアム全体のテーマとし、さらに、PAGE2006や新企画のWeb2.0勉強会等の場で、対外的にコンセプトを発信することができました。

これらの成果は、2005年度のドキュメント・メタデータ活用部会活動要項中に、次のように予告、記載されています：「異種のアプリを連携させるには必ずしもWebServicesによるだけではなく、ATOM/RSS、トラックバックなど、メタデータを活用した緩やかな連動の仕組みが相応しい場合も多く存在します。昨年度は、愛知万博iPlatプロジェクトで、WebServiceに画像付きブログを緯度・経度データを介して様々な手法で連携させてみた経験から、実際の情報構造に適したインタフェースを組むという柔軟なアプローチが有望なことを悟りました。かように、メタデータ活用による連携は、データ/コンテンツ主導の実装インタフェースとしても極めて有望視されるようになってきました。」

2006年の2月以降、IBMはじめ10数社がOpen Ajaxプロジェクトを立ち上げたりmicroformatsをてがかりに企業情報システムへの本格進出を狙うMicrosoft社が Web2.0に全面的にコミットを表明するなどの動きが出てまいりました。

また、ブログのレイアウト変更並みに構成の変更(configure)が容易な、Web2.0的ポータルも出現(例：<http://www.live.com/>)し、Webの見た目、手触りが変化しているのが体感されるようになってきています。「身近で有用なデータ」(コンテンツ、構造情報)と表裏一体のコンパクトな言語をインタフェースに用いたい、という要求は急拡大しています。これらの新しいユーザ中心のインタフェースは、使いやすい、優れた企業情報システムにとっても大いに検討すべき価値をもつと思われます。

活動内容:

- (a) Web2.0の全体像、哲学、利用者視点のビジョン、設計哲学、デザインパターンの調査
- (b) Ajax, マッシュアップ、REST型Webサービス等、Web2.0の各技術要素の研究、試作・評価
- (c) 社内Blog/SNS運用など、ユーザ参加型コンテンツ収集・連携のモデル、アプリの検討
- (d) XBRL活用、HR-XML活用、RSSマーケティング、ロングテール等、ビジネス面の検討、予測
- (e) 複数WebServiceを使い分け、併用するSOA2.0におけるメタデータ活用の役割の研究

重点施策

- (1) Web2.0勉強会から発展した部会としてAjax開発者向けの講習会等のデモ入りの内部講演
- (2) 「入りやすさ」「関連WG、部会、企業、学会・研究会、マスコミ等との連携のしやすさ」を重視し、年度途中で常時参加を受け付け。
- (3) 多種のサービスを自ら試用しその体験をメンバーと共有する文化の醸成
- (4) その発展として関連研究を横断したWeb2.0的コミュニティの形成
- (5) Web2.0提言書のとりまとめ

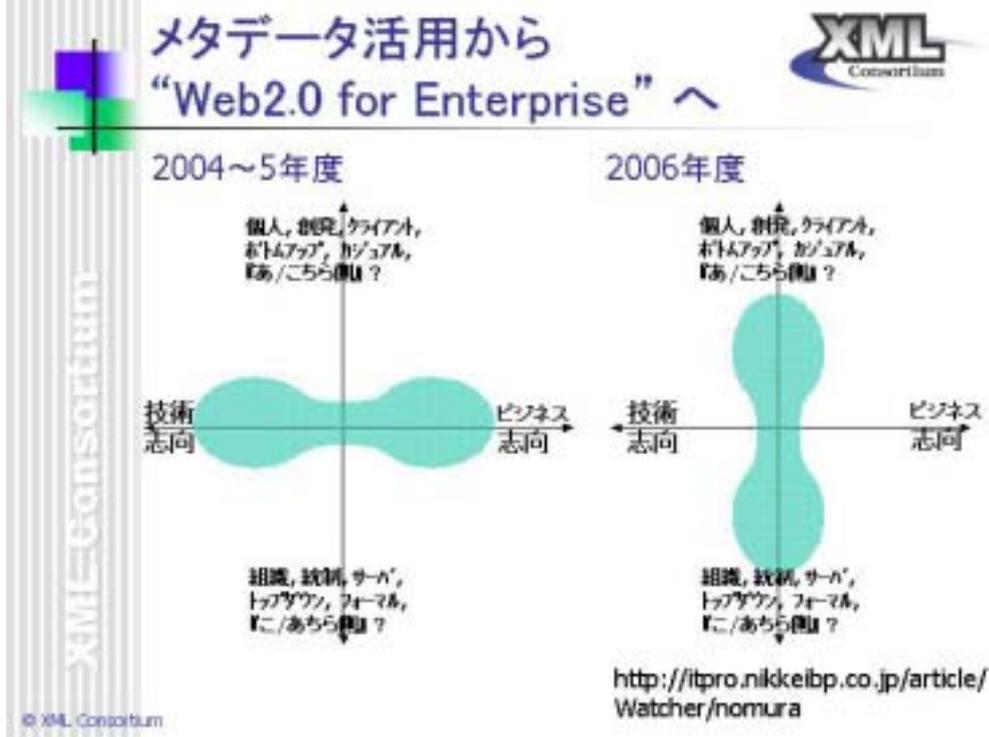
活動方法・報告・成果物

- ・メンバーによる月例ミーティング開催
- ・SNS、ブログ、メーリングリスト等による日常の情報交換、ディスカッション
- ・参加メンバー個人によるテーマ別の調査報告の実施
- ・XMLコンソーシアムの他部会および他団体との協調による普及推進
- ・技術顧問(慶應&W3C萩野教授, 名大吉川教授)ら識者を囲んだオープン・ディスカッション
- ・部会成果発表会(XMLコンソーシアムDay、XMLコンソーシアムWeek等)での活動報告

会員メリット

- ・RESTの使いこなし、SOAPとの併用、また、BPELとマッシュアップとの併用など、エンタープライズにとってのWeb2.0関連の最新情報・技術・実装ノウハウの取得
- ・Web2.0関連でオリジナルなアイデアを育て、試作に参加し、本格的な近未来体験
- ・将来アプリ、ビジネス発掘のためのビジネスアイデア発想の刺激豊かな環境
- ・エンタープライズ情報環境と個人情報環境の有機的統合を考える場への参加
- ・参加メンバー間の情報交換、人的ネットワークの確立

[参考]活動に際して意識する対立軸の更新



ドキュメント・メタデータ活用部会の、技術志向とビジネス指向の統合の追及(表裏一体化)は一定の成功をみる事ができた。それが当たり前となったWeb2.0時代には、新たに、個人志向とエンタープライズ志向との間の統合を追及する。コンテンツ・サービス事業を中心に、技術とビジネスはもはや表裏一体であり、今後は、技術とマーケティングの融合まで視野に入れ、サービス・サイエンス等を道具に価値創造のための方法論を追及する活動全般を、Web2.0というテーマに集約させていく。

連絡先

野村直之(メタデータ)、小林茂(日本ユニシス)、宮崎昭世(日立ソフトウェアエンジニアリング)、玉川竜司(Sky)

(5) クロスメディア・パブリッシング部会活動要綱案

活動目的

印刷出版業界で利用されている XML を調査し、XML コンソーシアム会員と情報を共有する。さらに今後 XML を活用できる場面を検討し、結果を XML コンソーシアムから印刷出版業界へ提示する。

別途調整中の、XML コンソーシアムと日本印刷技術協会(JAGAT)のアライアンスにおける具体的手段として、XML 普及啓発の一端を担う。

背景

JAGAT では、クロスメディア・エキスパート認証制度をスタートさせ、印刷出版業界において、インターネットを含む多様なメディアへ出版する知識と技術を向上させる動きがある。要素技術には XML も含まれ、メタデータの活用も現実のものとなっている。

キーワード: CMS(コンテンツ管理システム)、クロスメディア、CDP(MS オフィス・メタデータ)、ダブリンコア/PRISM/各種 XMP スキーマなどのドキュメントに関するメタデータ標準

活動内容

下記を円滑に進められる方法をメンバーと検討しながら実現させていく。

- (1) 当部会と、JAGAT クロスメディア研究会の交流(主に 7 月~9 月)
- (2) 印刷出版業界で利用されている XML の調査(主に 10 月~11 月)
- (3) 印刷出版業界の仮想顧客を想定し、XML の活用を提案書形式にまとめる(主に 12 月~1 月)
- (4) XML コンソーシアムが考える今後の印刷出版業界での XML 活用方法を提示(主に 2 月~4 月)

重点施策

部会初年度に相当するため、日本印刷技術協会との協力関係を築くこと、および、アクティブな部会メンバーを育てる。以上 2 点に関わる施策を重点とし、これを検討しながら進めていく。

目標は「印刷出版業界の現実を見据えた堅実な部会活動」。

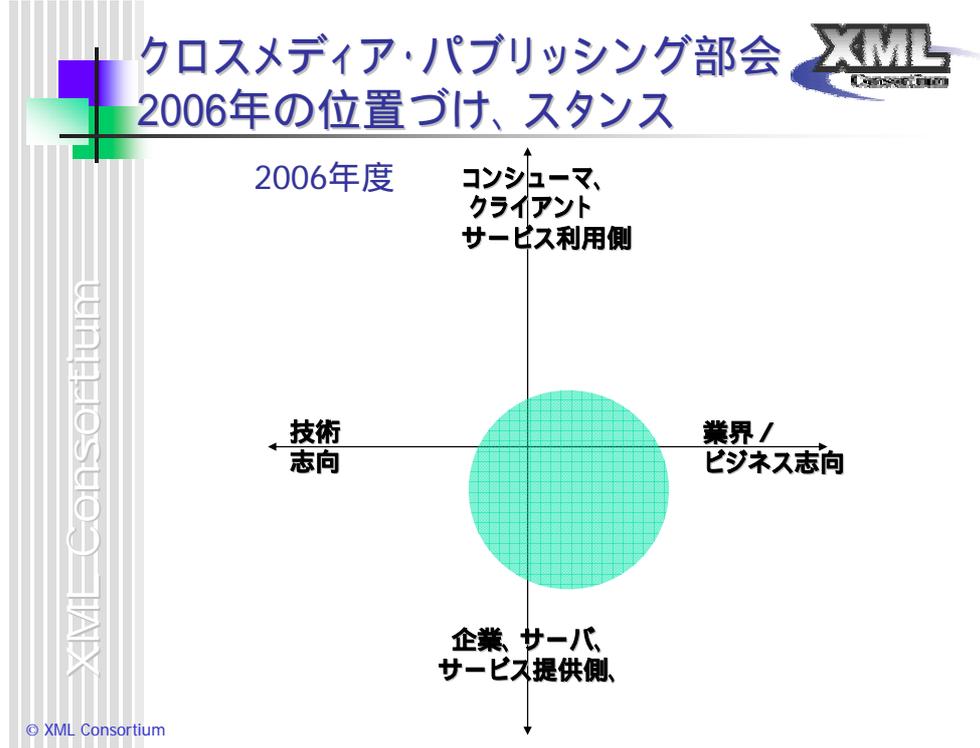
活動方法・報告・成果物

- ・メンバーによる月例ミーティング開催。16:00-18:00
- ・通信手段を利用した日常のディスカッション
 - メールリスト等
 - 電話会議あるいはチャット会議(夜間、曜日と時間帯を決めて実施)
- ・XML コンソーシアムの他部会との情報交換
- ・JAGAT 訪問、JAGAT クロスメディア研究会との交流会(月例ミーティングとは別で開催)
- ・印刷出版業界で利用されている XML の調査報告書を作成(11 月)
- ・「クロスメディア・パブリッシングへの XML 活用 2007」を作成
- ・部会成果発表会(XML コンソーシアム Day/Week 等)での成果発表

会員メリットおよび、期待する参加者

- ・印刷出版業界との交流を通じて業界知識を得ることができる
- ・XML の新しい活用方法を習得することができる
- ・参加メンバー間の情報交換、人的ネットワークの確立
- ・期待する参加者(下記ひとつで十分です):
 - 印刷出版業界に関連する方もしくは興味のある方
 - 提言書などの執筆に協力できる方、絵図の描画が上手な方
 - 電話会議あるいはチャット会議などでのコミュニケーション確立に協力してくれる方

[参考]活動に際して意識する対立軸



連絡先

イースト株式会社 藤原 隆弘 (fujiwat@est.co.jp)
XML コンソーシアム運営委員会 / 渉外委員 / エバンジェリスト
日本印刷技術協会クロスメディア・エキスパート認証制度検討委員
国際新聞電気通信評議会 NewsML1 メンテナンス分科会副議長
日本新聞協会 NewsML サポートチーム委員
HR-XML コンソーシアム US 本部会員 / 日本支部技術顧問

(6) ユビキタス・組み込み系部会活動要綱案

活動目的

これまでの調査研究活動をベースに、ユビキタスというキーワードに関わる XML 関連技術を整理し、今後の技術を含めて、市場、社会、家庭、人間に関わる分野への適用可能性を実証・検証することを目的とする。

活動内容

最新の技術動向とこれまでの検討をベースに、アプリケーションを選び、ベストプラクティスを検討する。実装レベルまで踏み込み、サブシステム間の交換データ形式(XML)を含んだ実現性の検討を目指す。最終的にはレポートとしてまとめる予定。

なお、レポート作成と平行して、従来からのヒアリングによる調査研究も継続させる。

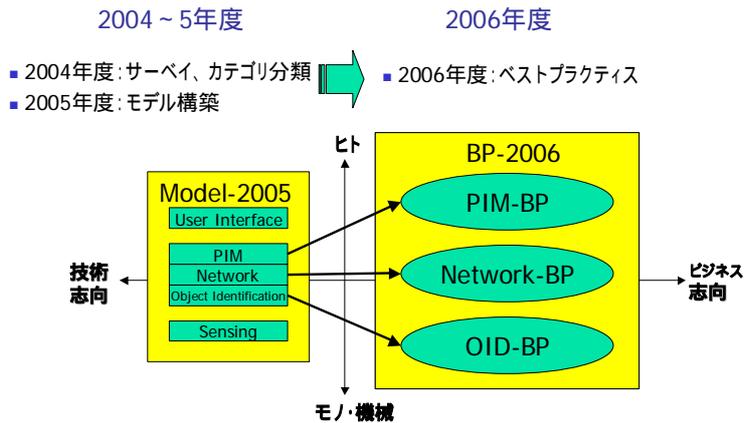
基本的な動向として、以下の可能性を考慮している。

- (1) モバイル指向、クライアント指向となる XML 処理
- (2) 個人管理(PIM)情報の活用とプライバシー、セキュリティ問題
- (3) アプリケーション分野の推移(企業ビジネスから社会、家庭、人間へ)
- (4) セマンティック・オントロジへの提言(全ての管理対象への ID=URI 付与)
- (5) ネットワーク・インフラへの提言(ID=URI と IPV6 との関係付け)

上記の背景としては、下記標準化組織の動向を注目し、必要に応じて連携して進めたいと考えている。

- (1) W3C のモバイル Web イニシャティブ(MWI)、複合ドキュメントフォーマット(CDF)WG
- (2) YRP ユビキタス研究所の T エンジンフォーラム
- (3) JEITA AV 機器標準化委員会
- (4) 日本規格協会ユビキタス社会を推進する情報基盤の標準化調査研究委員会

ユビキタス・組み込み系部会の位置づけ、 スタンス：モデルから“ベストプラクティス”へ



活動方法

- ・メンバー全員を対象とする定例ミーティングの開催(1回/月)
- ・テーマは設けるがWGに分けずに全体で議論する形とする。
なお、具体的なテーマや検討方法については、部会にて議論し、決定する。
- ・メーリングリストによる日々の情報交換、ディスカッション
- ・ソーシャル・ネットワーク・サイト mixi を活用したディスカッション
- ・XMLコンソーシアム他部会および他団体との交流
- ・Webページ、雑誌記事、出版など外部向けコンテンツの作成
- ・XMLコンソーシアムDay, Weekでの活動報告
- ・学会、他研究機関との連携

活動成果・メリット

- ・最新技術、動向の把握、スキルアップ
 - 標準化組織メンバーによる報告に基づく最新技術、動向の把握
 - 各分野の専門を招いたヒヤリングやディスカッションによるスキルアップ
- ・情報公開
 - 学会、雑誌等での発表
- ・参加メンバーによる情報交換、人的ネットワークの確立

参加資格

- ・XMLコンソーシアムの会員でユビキタス関係および組み込み系の機器やその利用方法に関心があること。
特に、ユーザー企業からの参加を歓迎する。
- ・定例ミーティング又はメーリングリスト、総会・セミナー実施等の活動に参加できて、部会の活動に参加可能なこと

体制案

- ・リーダー候補
ジャストシステム 大野邦夫
- ・サブリーダー
日立製作所 大場みち子
- ・テーマ取りまとめ者候補

(7) ビジネス・イノベーション研究部会活動要綱案

活動目的

ビジネス環境の変化に俊敏に対応し、経営戦略上の施策を実現するために、これまで以上に広くかつ密接に IT を活用することが不可欠となっている。具体的には、昨今、日本版 SOX 法の適用など内部統制の強化は企業共通の重要な経営課題になっている。また、現場においてグループや個人の多様性を活かし協調することで創造性を引き出す考え(Web2.0 に類似)に着目するようになってきている。これらの取り組みに情報システムが重要な役割を果たすことは論を待たない。

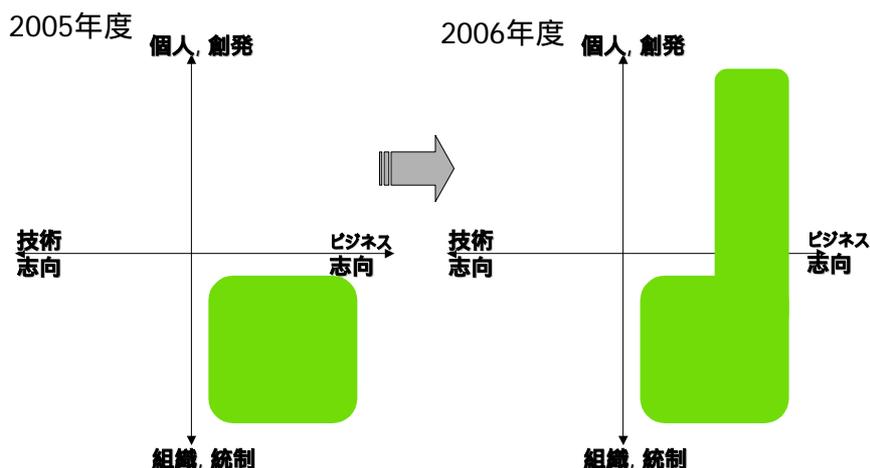
当部会では、ビジネスの目標や計画を反映し業務と IT を明確に関連づける方法、現場が創意工夫する情報活用形態のあり方を研究する。

活動内容

ビジネスモデル定義方法、ビジネスプロセス・モデルリング手法の研究
ビジネスアーキテクチャからシステムアーキテクチャの関連付け方法の研究
エンドユーザ主導の情報活用の形態と必要な技術の研究

活動の位置づけ

活動内容の位置づけを下図に示す。



2006年の重点施策

2005年度実施した「ビジネスプロセス記述とサービス設計の試行」プロジェクトで立案したモデリング手法を実践する機会を設け検証する。また、新たな取り組みとしてエンドユーザ主導の情報活用環境の技術動向を調査・研究する。

- (1) ビジネスプロセス & サービスのモデリング手法の取りまとめ
- (2) UML/BPMN 研究会、SOA 部会連携によるモデリング手法の実践
- (3) EUC 技術現状調査

活動方法

SOA 部会とのコラボレーション(ミーティングの同日開催、メンバー交流)
XML コンソーシアム他部会および他団体との協調による普及推進
月例ミーティングでの Face-to-face のディスカッション
メーリングリストによる日々の情報交換、ディスカッション
参加メンバー分担による個別テーマや事例の調査
Web ページ、雑誌記事、出版など外部向けコンテンツの作成
XML コンソーシアム Day、XML コンソーシアム Week での活動報告

ワーキング・グループ

2006 年度最初の部会ミーティングにて、参加者の意向を集約し編成する。

対象者

IT ユーザー企業業務企画部門、IT ユーザー企業情報システム部門、S/W 提供ベンダー導入支援部門、SI ベンダー上流工程担当部門等、ビジネスと IT の関連付けや融合の方法について興味のある方。ビジネスプロセス・モデリング初心者参加を前提に活動する。

会員メリット

初級レベルから段階を踏んだメンバーのスキル・アップ
ビジネス中心のシステム開発アプローチの手法・ノウハウの獲得

参加メンバーによる情報交換、人的ネットワークの確立

体制

リーダー/サブリーダーは2006年度の最初のミーティングで決定する。

候補

牧野友紀 日本ユニシス
天野富夫 日本 IBM
倉澤良明 キヤノン
芦田尚人 ブレイニーワークス

(8) ContactXML 部会活動要綱案

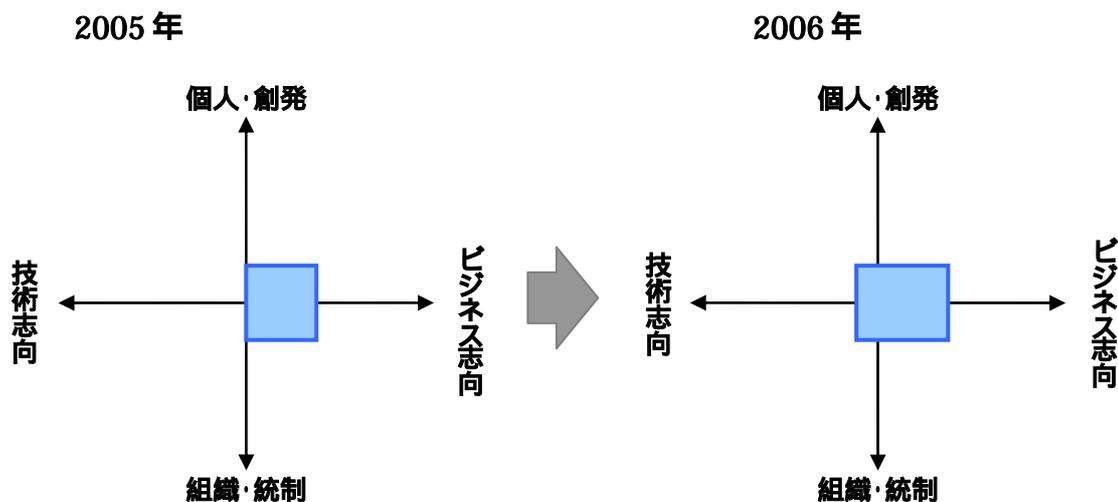
目的

ContactXML仕様に関する制定・開発・情報公開・情報交換等のContactXML仕様の普及活動を行う
ContactXML仕様を活用したビジネスへの後方支援を行う

活動内容

ContactXML仕様の開発・制定・標準化
ContactXMLの適用研究・事例収集
ContactXML仕様に関する情報の収集、交換ならびに提供を行う場としての部会及び「ContactXML.org」(ポータル・メーリングリスト)の運営
ContactXML仕様の普及活動
上記全成果物のXMLコンソーシアムへのフィード・バックと承認申請

活動の位置付け



活動方法

必要に応じて下記の活動を実施する

- メンバー全員による部会の開催
- テーマ毎個人による調査報告の実施
- 他部会と連携した研究、セミナーの開催
- ContactXMLメーリングリストを使用した意見交換
- 出版等外部向けコンテンツの作成

活動成果予定

仕様等の問い合わせに関する対応結果

- 仕様に関する問い合わせや指摘事項が発生した際に生じた各種情報

参加資格

コンタクト情報の記述・交換に関心があること。

定例ミーティング又はメールングリスト、総会・セミナー実施等の活動に参加できて、部会の活動に参加可能なこと。

スケジュール概要
未定

(9) TravelXML 標準化部会活動要綱案

活動目的

旅行業者、交通機関、宿泊施設、各種サービス機関との間で行われる、取引情報について、業界での利用形態を調査・研究し、業界全体の効率化を目的とした電子商取引情報のXMLによる標準化提案を目指します。また特にパッケージ旅行商品に関する扱いについてのサポートを第一義の目的として検討します。

活動内容

旅行業業界商取引のXML標準化情報(Travel XML)の普及・啓発活動

- Webページ等による情報の発信
- XMLコンソーシアム他部会及び他団体との協調による普及推進・標準化支援等

必要に応じて以下の活動を行う。

- 旅行業業界における商取引についての調査と要件把握
- 旅行業業界における商取引のXML標準の改善検討

活動方法

必要に応じて以下の活動を行う。

- 月1回程度のミーティングの実施
- 商取引に関連する各旅行業者との協力による業界情報収集
- メールングリスト活用による情報交換、ディスカッション
- 主幹事メンバによる討議資料・報告書等のドキュメンテーション
- 他部会、他団体との連携

参加資格

XMLコンソーシアムの会員で旅行業業界商取引の標準化に高い関心を有すること

定例ミーティング又はメールングリスト、総会・セミナー実施等の活動に参加できて、部会の活動に参加可能なこと

体制

リーダー：遠城 秀和 株式会社 NTT データ

連絡先

活動内容についてのご意見・ご質問は以下におねがいします

xmlcons@fsi.co.jp

(10) コンテンツ利用情報標準化部会活動要綱案

目的

著作権者(著作権管理団体も含む)、コンテンツホルダー、配信事業者の間で行われるコンテンツ利用に使われる情報について業界での利用形態を調査・研究し、業界全体の効率化を目的としたコンテンツ利用情報のXMLによる標準化提案を目指します。

活動内容

必要に応じて以下の活動を行う。

- コンテンツ利用情報対象業務についての調査と要件把握
- コンテンツ利用情報のXMLによる標準化案(第2版)作成
- コンテンツ利用情報XML標準化情報の普及
 - = Webページ等による情報の発信
 - = XMLコンソーシアム他部会及び他団体との協調による普及推進・標準化支援等

活動方法

必要に応じて以下の活動を実施する。

- 標準案作成中は月1回程度のミーティングの実施
- コンテンツ利用に関連する業界団体との協力による業界情報収集
- メーリングリスト活用による情報交換、ディスカッション
- 主幹事メンバによる討議資料・報告書等のドキュメンテーション
- 他部会、他団体との連携

参加資格

XMLコンソーシアムの会員でコンテンツ利用情報の活用で主導的なポジションにある著作権者(著作権管理団体も含む)、コンテンツホルダー、配信事業者、システム提供のSI企業、著作権許諾支援ソフト提供企業、その他著作権許諾情報に興味を持つ企業などのコンテンツ利用の商取引の標準化に高い関心を有すること
定例ミーティング又はメーリングリスト、総会・セミナー実施等の活動に参加できて、部会の活動に参加可能なこと

体制

リーダー : 福永 博信 株式会社 NTT データ

サブリーダー : 遠城 秀和 株式会社 NTT データ

連絡先

活動内容についてのご意見・ご質問は以下におねがいします

xmlcons@fsi.co.jp

(11) 関西部会活動要綱案

目的

関西で活動を行える会員間での、情報交換と交流を全体の目的とする。参加会員による活動内容の希望を尊重し、XMLを核とした情報交換を中心に地域で就業者を中心に活動を行う。活動を通じて、関西でのXML、Webサービス、SOA、Web2.0等のXMLに関連する普及活動の活性化に努める。活動では、実装技術習得、情報共有を手軽に行える環境を構築し、部会として恒久的な活動となるべく基盤を育成する。

活動内容

XMLを根幹のキーワードにWebサービス、SOA、Web2.0に至るまでを、会員間の交流を主たる目的としながら、以下の活動を行うこととする。

各活動テーマに対してはサブグループを構築し活動を行うが、定例部会では全員を対象として、座談形式で意見交換を行い部会としての情報共有を図る。

Web2.0、SOA 他最新技術交換

少し気になる技術の情報を全員で考え活用方法を検討する。

Web サービス実装

仮想システムを通じたWebサービスやUI検証実装を行い、技術の経験、習得を図る。

環境構築

変化するコミュニケーション方法を取り入れ情報共有方法として活用しながら、実活用シーンを検討する。

地域性を生かした実装モデルの調査

学校、団体との共同研究を目指し活動

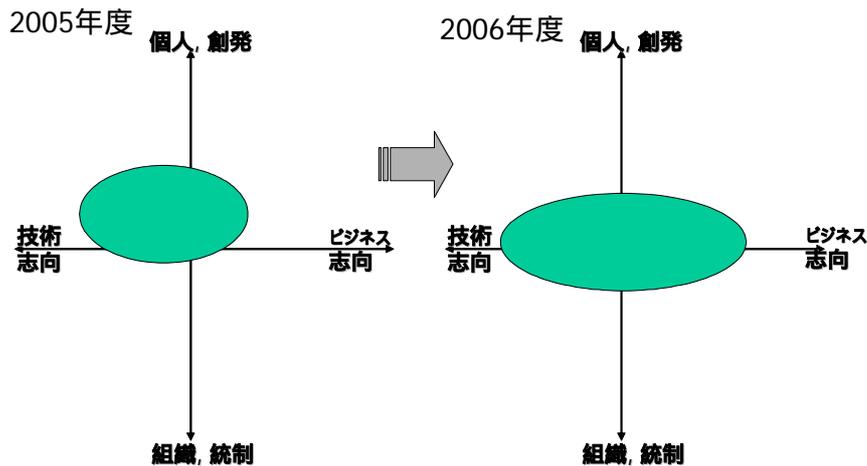
情報発信

セミナー実施

活動メンバーの増加を目指し企画

活動の位置づけ

活動の位置づけを下図に示す。



昨年度は、活性化の目的により、企業に属する参加者のスキル向上を目指した活動を中心に行ってきたが、本年度は、参加者のスキルの向上はそのままに、参加者が属する企業に還元できる活動を心がける。それにより、地域での就業者を含む企業による部会活動の基盤を構築する。

活動方法

月例ミーティングでの Face-to-face のディスカッション
 メールリストによる日々の情報交換、ディスカッション
 月例ミーティングにおけるテーマ持ち寄りの意見交換会
 コミュニケーションツールを活用したオンライン検討
 他団体、学校との連携

活動成果

実装経験の共有
 初歩からの経験における情報の公開
 調査内容、意見交換内容の公開
 着目技術については、活動のミーティングで決定

2006年の重点施策

関西での活動にあたり、立場、役割の異なる参加者が集まる地域の部会として、参加会員の意識統一を図り、恒常的な拠点とすべく、更なる確固とした地盤を築くことを重点課題とする。

関西部会を更に活発な活動の場とすべく、活動のシナリオを以下に記載する。

- (1) 習熟度に依存しない環境の提供
 - オンライン情報共有環境の提供
 - 実装技術習得環境の提供
- (2) 意見交換の活性化
 - 実装による経験機会の提供
 - 意見交換による情報の提供
- (3) 関西に拠点を置く団体との共同研究

対象者

XML コンソーシアムの会員で関西における活動に興味をもたれる方
 定例 Meeting やオンラインにおける意見交換に参加でき、情報の共有に努めることが可能な方

会員メリット

関西を中心とした参加メンバーによる情報交換、人的ネットワークの確立
 多様なコミュニケーション方法の実践
 実装を通して技術の習得
 Web サービス活用環境の提供

体制

ワークグループ

全員で共通認識を持つ観点より、現状は作成しない。

但し、活動テーマにより、担当者の事前討議は状況により行う。

体制案

開催時に、活動メンバーにより、リーダーの決定及びサブリーダーの有無を含め、検討する。

以上

3. 2006 年度 XMLコンソーシアム組織

